

令和 3 年

# 乙訓福祉施設事務組合議会第 1 回定例会会議録

開会：令和 3 年 3 月 25 日

## 乙訓福祉施設事務組合議会

令和3年乙訓福祉施設事務組合議会第1回定例会

議事日程

令和3年3月25日(木)

午前10時00分開議

○出席議員(9名)

向日市	飛鳥井 佳子 議員	石田 眞由美 議員
	北林 智子 議員	
長岡京市	白石 多津子 議員	住田 初恵 議員
	山本 智 議員	
大山崎町	嘉久志 満 議員	辻 真理子 議員
	波多野 庇砂 議員	

○欠席議員 なし

○議会事務局職員出席者

半田 麻子 書記

○地方自治法第121条の規定により、説明のために出席した者(12名)

安田 守	管理者(向日市長)
中小路 健吾	副管理者(長岡京市長)
前川 光	副管理者(大山崎町長)
上野 隆	監査委員
河原崎 清隆	事務局長兼総務課長
八木 富士子	会計管理者(向日市会計管理者)
藤本 正次	総務課参事
中川 仁夫	事務局次長兼乙訓若竹苑施設長
石野 功一	事務局次長兼介護障害審査課長
小松 悦子	乙訓ポニーの学校施設長
伊藤 啓子	障がい者相談支援課長
城谷 晋太郎	総務課主幹

○議事日程

- 日程 1 会議録署名議員の指名
- 日程 2 会期の決定
- 日程 3 議長選挙
- 日程 4 管理者諸報告
- 日程 5 例月出納検査結果の報告
- 日程 6 第1号議案 公平委員会委員の選任について
- 日程 7 第2号議案 専決処分の承認を求めることについて  
(令和2年度乙訓福祉施設事務組合一般会計補正予算  
(第2号))
- 日程 8 第3号議案 令和3年度乙訓福祉施設事務組合一般会計予算

○会議録署名議員

向日市	北林智子 議員
大山崎町	嘉久志 満 議員

(開会 午前10時00分)

○白石多津子副議長 おはようございます。

ただいまの出席議員数は9人であります。

それではただいまから、令和3年乙訓福祉施設事務組合議会第1回定例会を開会いたします。

日程に入ります前に、一言ご報告いたします。

現在、議長が不在でありますので、地方自治法第106条第1項の規定により、副議長の私が、議長が選出されるまでの間、議長の職を行いますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、今定例会におきましても、マスクを着用しての質疑、着席しての説明及び答弁といたしますので、いつもより声を張っていただきますようよろしくお願いいたします。

さて、大山崎町議会議員の役職改選が行われ、本組合議会に新しく嘉久志満議員、辻真理子議員、波多野庇砂議員をお迎えすることになりました。ここにご紹介をさせていただきます。

それでは、各議員さんから一言ご挨拶をお願いいたします。

嘉久志 満議員。

○嘉久志満議員 おはようございます。

このたび、乙訓福祉施設事務組合に2年間お世話になることになりました。よろしくお願いいたします。

○白石多津子副議長 辻真理子議員。

○辻真理子議員 おはようございます。

改めまして、また2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

○白石多津子副議長 波多野庇砂議員。

○波多野庇砂議員 波多野庇砂でございます。よろしくお願いいたします。

○白石多津子副議長 ありがとうございます。

それでは、これより日程に入ります。

日程1、会議録署名議員の指名を行います。

本会議録署名議員は、会議規則第75条の規定によりまして、向日市の北林智子議員、大山崎町の嘉久志 満議員を指名いたします。

次に、日程2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

今定例会の会期は、本日 1 日限りといたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認め、会期は本日 1 日限りといたします。

次に、日程 3、議長選挙を行います。

お諮りいたします。

本件につきましては、先ほど開催いたしました議員全員協議会でご審議いただきましたとおり、地方自治法第 118 条第 2 項の規定に基づき、副議長による指名推選の方法により行いたいと思います。

これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認め、指名推選を行います。

議長については、大山崎町の波多野庇砂議員を指名いたします。

お諮りいたします。

波多野庇砂議員を議長の当選人と定めることにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。

よって、本乙訓福祉施設事務組合議会議長は、大山崎町の波多野庇砂議員と決しました。

それでは、ただいま当選されました新議長から、一言ご挨拶を賜りたいと思います。

○波多野庇砂議長 波多野庇砂でございます。役不足とは存じますが、よろしく願いいたします。

○白石多津子副議長 ありがとうございます。

それでは、議長席にお座りいただきたいと思います。

○波多野庇砂議長 それでは、引き続き議事を進めさせていただきます。

日程 4、管理者諸報告であります。

安田管理者。

○安田 守管理者 おはようございます。

本日、ここに令和 3 年乙訓福祉施設事務組合議会第 1 回定例会を招集させていただきましたところ、議員各位には、ご出席いただきましてありがとうございます。

それでは、第 4 回定例会以降の報告をさせていただきます。

最初に、総務関係でございますが、1月に乙訓行財政問題協議会幹事会及び乙訓市町会定例会におきまして、令和3年度の一般会計予算及び事業の概要につきまして協議を行いました。

また、定例の公平委員会を開催し、組合からの報告と意見交換を行いました。

次に、若竹苑の関係でございますが、現在の利用者数は、就労継続支援28名、生活介護5名、合わせて33名となっており、市町別利用者数は、向日市6名、長岡京市24名、大山崎町3名となっております。

地域活動支援センター事業の登録者数は18名で、日中一時支援事業の登録者数は54名でございます。また、相談支援事業の現在の契約件数は39件でございます。

次に、介護障害審査課の関係でございますが、介護認定審査会では昨年4月から本年1月までの間、合議体を190回開催し、3,779件の二次判定を行いました。

また、障害支援区分認定審査会では、同じく、昨年4月から本年1月までの間、合議体を20回開催し、219件の二次判定を行いました。

次に、障がい者相談支援課の関係でございますが、障がい者虐待防止センターでは、圏域の事業所職員を対象とした研修会を、12月から2月にかけて計6回開催いたしました。

最後に、ポニーの学校の関係でございますが、児童発達支援事業は、現在、101組の通園児並びに保護者の方が利用されております。内訳は、向日市36組、長岡京市57組、大山崎町8組でございます。

また、障害児相談支援事業につきましては、1月末現在で、契約者数は358名で、内訳は、向日市147名、長岡京市174名、大山崎町37名でございます。

報告は、以上でございます。

○波多野庇砂議長 以上で管理者諸報告を終わります。

次に、日程5、例月出納検査結果の報告であります。

監査委員の報告を求めます。

上野監査委員。

○上野 隆監査委員 それでは、私から報告をさせていただきます。

地方自治法第235条の2第1項の規定に基づく例月出納検査を、令和2年11月30日、12月23日、令和3年1月28日及び2月22日に実施いたしましたので、同法第235条の2第3項の規定により、その結果を報告いたします。

検査の結果につきましては、お手元にお配りいたしました報告書のとおりであります。なお、報告書にあるとおり、各月の出納などについては適正に処理されました。

以上で例月出納検査結果の報告を終わります。

○波多野庇砂議長 次に、日程6、第1号議案 公平委員会委員の選任についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

安田管理者。

○安田 守管理者 ただいま議題となりました第1号議案 公平委員会委員の選任について、ご説明申し上げます。

公平委員会委員の荻野和雄氏は、令和3年3月31日をもちまして任期満了となります。その後任については、大山崎町より推薦をいただいた小泉昇平氏を選任いたしたく、地方公務員法第9条の2第2項の規定によりまして、提案するものであります。

同氏の略歴につきましては、議案の参考に記載しているとおりであります。

よろしくご審議の上、ご同意賜りますようお願い申し上げます。

○波多野庇砂議長 説明が終わりました。

お諮りいたします。

本件につきましては、質疑、討論を省略して、直ちに採決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

第1号議案について、原案のとおり同意することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

挙手全員であります。よって、第1号議案は原案のとおり同意することに決しました。

次に、日程7、第2号議案 専決処分の承認を求めることについてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

安田管理者。

○安田 守管理者 ただいま議題となりました第2号議案 専決処分の承認を求めることについて、令和2年度乙訓福祉施設事務組合一般会計補正予算(第2号)を御

審議いただくに当たり、その概要につきましてご説明申し上げます。

今回の補正は、既定の歳入歳出予算の総額から、それぞれ338万4,000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ4億4,957万4,000円とするものでございます。

これらは、新型コロナウイルス感染症関連の助成金等財源措置の関係から、直ちに予算措置をする必要が生じたことから、地方自治法第179条第1項の規定により、去る1月29日に専決処分を行ったもので、同条第3項の規定により、これを報告し承認をお願いするものであります。

なお、詳細につきましては事務局長より説明いたしますので、よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○波多野庇砂議長 河原崎事務局長。

○河原崎清隆事務局長 それでは、引き続きまして補正予算（第2号）について、ご説明いたします。

それでは初めに、歳入からご説明させていただきます。

補正予算書の3ページをご覧ください。

款1分担金及び負担金、項2分担金、目1市町分担金を625万4,000円減額するものでございます。これは2年度の予算執行見込みに基づき、一定の余剰金が見込めることから、年度途中での市町分担金の精算を行うものでございます。

長岡京市と大山崎町につきましては、2年度の当初予算計上時点で、分担金の計算において使用する、若竹苑の市町別利用者数に誤りがございましたため、本来は増額の請求をすべきところ、今回の精算分と相殺することによりまして、結果としてゼロ精算ということになります。精算額については、全て向日市分ということになっております。

次に、款2府支出金、項1府補助金、目1民生費補助金287万円の増額となっております。

これは、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業助成金の障害分ということでございまして、コロナの感染を抑制、防止するための器具類の購入に対する補助金として、3月末までの物品の納品、支払いを補助の条件としておりますため、先ほどございました、去る1月29日に専決処分を行わせていただきました。

引き続きまして、歳出についてご説明をいたします。

同じく3ページをご覧ください。

款3民生費、項1社会福祉費、目1若竹苑管理費の194万5,000円の増額、

これは備品購入費として、若竹苑利用者送迎用の福祉車両を購入し、項2児童福祉費、目1ポニーの学校管理費の92万5,000円の増額では、相談支援事業で使用する車両と空気清浄機を購入するものでございます。

合わせまして、補助金の上限額、287万円とするものでございます。

最後に、款4予備費で、625万4,000円を減額するものでございますが、これは歳入の分担金の減額に伴い、予備費を減額して調整するものでございます。

以上、簡単でございますが説明とさせていただきます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○波多野庇砂議長 説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

辻議員。

○辻 真理子議員 ありがとうございます。

これ、専決ということで、先ほども局長の方からご説明ありましたとおり、3月末までに納品しないと、府からの助成金であったり補助金が使えないということでの専決ということでしたけれども、この上限287万円というのが、府から直接この事務組合の方に入ってくる助成金のマックスというか、上限が287万円と。

それ以外から、もう入ってくることはないということで理解してよろしいですか。

○波多野庇砂議長 河原崎事務局長。

○河原崎清隆事務局長 はい、ただいまご説明申し上げました関連の助成金については、それぞれの事業別に設けられております上限額を合わせまして287万円、これ以上の補助金というのはいりません。

また、そのほかにも、長岡京市さんの地活センター等体制強化事業補助金、ございまして、これで、そのほかにも10万円が入ってきたりということはございませぬけれども、ただいま説明した補助金については、上限で、以上でございます。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻 真理子議員 あと、先ほどの分担金の、精算されたということなんですけれども、これ、単純に長岡京市と大山崎町の在住の若竹苑利用者数が、思っていたよりも多かったという、その人数の配分が変わったので、この分担金を精算されたということですか。

○波多野庇砂議長 河原崎事務局長。

○河原崎清隆事務局長 はい、そのとおりでございます。当初、計画した数字が、向日市さんが多くて、長岡京市さん、大山崎町さんが少なかった。それを正規に、

戻させていただいて、という内容でございます。

○波多野庇砂議長 ほか、ございませんか。

(「なし」の声あり)

それでは、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、反対討論を求めます。

(「なし」の声あり)

次に、賛成討論を求めます。

(「なし」の声あり)

討論を終結いたします。

これより採決に入ります。

第2号議案について、原案のとおり承認することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

挙手全員であります。よって、第2号議案は原案のとおり承認することに決しました。

○波多野庇砂議長 次に、日程8、第3号議案 令和3年度乙訓福祉施設事務組合一般会計予算を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

安田管理者。

○安田 守管理者 ただいま議題となりました第3号議案 令和3年度乙訓福祉施設事務組合一般会計予算をご審議いただくに当たり、その概要につきましてご説明申し上げます。

本組合の構成団体である二市一町は、新型コロナウイルス感染症対策を含め、厳しい社会経済情勢のもと、財政の健全化に向けて鋭意取り組まれているところでございます。

本組合におきましても、そうした構成団体の財政運営の厳しい状況を十分認識した上で、計画的な財政運営を図り、求められる事務事業に対し、よりよい運営をするため、当該予算の調整を行ったところであります。

予算の概要についてですが、令和3年度の予算総額は4億6,578万8,000円で、対前年度比4.7%、金額で2,110万1,000円の増額となっております。

なお、詳細につきましては事務局長より説明いたしますのでよろしくご審議賜り

ますようお願い申し上げます。

○波多野庇砂議長 河原崎事務局長。

○河原崎清隆事務局長 それでは、引き続きまして、令和3年度予算について、主だったものの内容や前年との対比を中心にご説明をさせていただきます。

まずは、歳出の性質別の概要からご説明いたします。

お手元の予算資料の2ページをご覧ください。

予算総額につきましては、4億6,578万8,000円で、前年度比較では2,110万1,000円の増額となっております。

まず歳出につきましては、2ページの歳出の性質別予算額表に記載しておりますように、人件費と補助費等の増額が主な要因となっております。

人件費につきましては、前年度比で1,365万6,000円の増額となっておりますが、これは職員の人数で3名の増員となっており、主なものとしてポニーの学校の業務増に対して職員を増員するものでございます。

人件費につきましては、この増額、3名の増員とともに、あとは定期昇給等によるものでございます。

また、経常的な経費の中では、補助費等が1,060万3,000円の増額となっております。これは、来年度は審査認定有効期間の延長等に伴う更新の年によりまして、介護、障害認定の件数の増が見込まれることから、かかりつけ医の意見書作成謝礼が1,094万5,000円増額になるものでございます。

なお、令和3年度の事務事業別の主な経費などにつきましては、予算資料の4ページから5ページにかけて記載しておりますが、3年度の主な新規事業や臨時経費としまして、5ページに載せておりますが、まず、若竹苑管理費で、若竹苑建物南側外構、側溝修繕料として26万4,000円、これは庁舎の修繕計画等に基づきまして、ひび割れが起きているのを修繕するためのものでございます。

次に、ポニーの学校管理費で、折りたたみネット太鼓橋を、備品購入費として28万1,000円、これは療育発達遊具として使用していたものが、老朽化により破損したためでございます。

ただいま説明させていただきましたもの以外の経費につきましては、前年度と大差がございませんので、説明を省略させていただきます。

続きまして、歳入についてご説明いたします。

予算書の6ページをご覧ください。

款1分担金及び負担金、項1分担金、目1市町分担金で、3億3,971万

2,000円、前年度比較で2,023万1,000円の増額となっております。

これは、先ほどご説明いたしました、歳出の増額が主な要因でございます。

次に、項2負担金、目1障害福祉サービス事業負担金6,097万8,000円、前年度比較で563万5,000円の減額となっております。

これは、若竹苑の支援費関係でございます。利用者数が就労継続事業で2名、生活介護事業で1名の減収となる見込みによるものでございます。

目2地域生活支援事業負担金、若竹苑のもう一つの事業であります地域活動支援センター事業と日中一時支援事業の利用者の自己負担分の収入でございます。

次に、目3障害児通所支援等事業負担金5,209万2,000円、前年度比較で616万1,000円の増額となっております。

これはポニーの学校の支援費収入でございます。児童発達支援事業の利用人数の増と、相談支援事業は、契約件数の増により増額となっているものでございます。

次に、7ページから8ページをご覧ください。

款2府支出金、項1委託金、目1民生費委託金300万円、これは乙訓圏域の自立支援協議会の運営に係る経費に対する委託費という形で、京都府からいただくものでございます。

次の款3財産収入、項2財産売払収入668万2,000円、前年度比較で53万2,000円の増額となっております。

これは若竹苑の授産事業の収入でございます。主に除草作業による増額となっているものでございます。

なお、その他の歳入につきましては、前年度と大きな違いはございませんので、説明を省略させていただきます。

以上、概略でございますけれども、令和3年度予算の説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○波多野庇砂議長 説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 まず、若竹苑の就労継続B型について、先ほども言われましたけれども、定員が34名だけれども、契約者数が減って28名で、そういう予算になっているんですけれども、就労継続Bを利用する方自体が減っているのでしょうか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 お見込みのとおりでございます。利用さ

れている方の人数が減っているという形でございます。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 全体として、その就労継続B型をする人が減っているのか、それとも、若竹苑に来る人が減っているのかと、そういう意味なんですか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 全ての就労継続支援B型事業の実態について、私の方で把握しているわけではございませんが、他施設においては、増えているところもあるでしょうし、私どもと同じように減っているところもあるのではないかと思います。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 今回、先ほど説明を受けましたけれども、工賃も増えたのかもわからないですけど、除草作業とか、下請、軽作業が、昨年に比べて増える見込みの予算化をされているんですけども、そういうのが、そういう人たち、就労継続B型を必要な方が、若竹苑を選ぶ際に、どういうことをやってはるのかなということでも、選ばれると思うんです。

今、そういう作業が選ばれているから来てはるのか、それともほかのところではまた違うようなこと、やってはると思うんですけども、その辺のことをどう分析されているのかということと。

それから、この予算資料の8ページに、重点目標が書かれていて、コロナで作業の受注量が不透明やし、作業の業種に偏りをなくして、新たな作業の受注によって作業量を確保する、利用者とその家族のライフサイクルを意識し、年代に合った働き方や仕事の種類を考えていきます。

高齢化する利用者の体力等を考えて、そういうことはすごく重要なことだと思うんですけども、こういうことを踏まえて、新たな業種を考えていくということが書いてあったので、それが除草作業ですか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 1つ目のご質問についてですけども、確かに、私ども若竹苑でしかやっていないような、お墓の清掃でありますとか、というところについては、他の施設の方では、そういうようなことをやっておりませんので、もしかしたら、そういうことが、私どものところの施設を選んでいただく、ここでしかやってない作業があるからということ、来ていただいているという可能性もあるかもしれませんし。

それと並行して、下請作業もいろいろやっておりますので、もしかしたら、その下請作業の中身が自分に合っているということで選んでくださっているということもあるかと思っています。

2つ目のご質問についてですけれども、確かに今年度につきましては、感染予防に関して、特に高齢者施設の清掃作業の方が、今年度は一度も行けておりません。その関係で、その収入というのが減少になっておりますので、もう今年度既に新たな下請作業というものを追加したりとか、それから紹介いただいたところのお仕事を初めて受けていったりとかすることで、収入減のところを、できるだけ賄いたいなというふうに考えております。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 ありがとうございます。ほな、いろいろ紹介はしてくれてはるんですね、作業の。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 飛び込みで、こういう仕事できませんかということで、業者さんの方からお願いがあったケースもありますし、既に受けている業者さんの中でも、増やすことができるような作業があれば、それについては、もうお願いするようなことも、今後は考えていかないといけないなというふうには思っています。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 ありがとうございます。

生活介護事業なんですけれども、定員が6名で、契約者数が、去年は6名だったと思うんですけれども、5名に、前年度より減少してるんですけれども、予算書を見ると、予算書の6ページで、生活介護の、向日市の負担金ですか、それがすごく前年度より減っているんですけれども、そういう、向日市からの生活介護の事業を受ける人が減ってるということは、向日市のあたりに、そういう生活介護をする事業所があるから、そちらに行って、ここは減ってるということですか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 予算においては、令和2年度の実績をもとに考えていきますので、昨年度、令和元年度とそれから令和2年度を比較して、その中で、向日市の方が1名減っておられますので、その実績をもとに策定したということでございます。

向日市の方に施設がたくさんあるからとか、そういうことではございません。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 生活介護を受けはる人が一番多いかなと思うんですけれども、そういう方、たくさんいらっしゃると思うので、ここも選んでもらえるようにやっていただきたいなと思うのと。

それから、予算資料の重点目標で、創作活動や余暇活動の充実感と社会参加の機会を増やすというふうに、令和2年度は書いてあったんですけれども、今年は、充実を図るだけで、社会参加の機会を増やすということがなくなってるんですけど、目標からね、やっぱり社会参加をしていただくということが、すごく重要なことなんじゃないかなと思うんですけれども、その辺は、なぜなくされたのか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 社会参加の機会をあまり重視していないということではございません。

社会参加という言葉在省いたのは、確かに、ご指摘のとおり、その言葉がなくなってしまうと、社会参加しないのではないかというふうな印象に、確かになるかもしれませんが、そここのところにつきましては、来年度につきましても、2年度と同様にやっていきたいと考えておりますし、地域参加という言葉の中に、社会参加という意味合いも、私どもの方としては含んだつもりではございました。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 ぜひ、社会参加の機会を増やしていただきたいと思います。

地域活動支援事業なんですけれども、このあたりは、利用者は各自、大体週何回ぐらい、何日ぐらい利用されているのでしょうか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 実態といたしましては、一番少ない方で週に1度、多い方で週に3日ないしは4日となっております。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 以前はね、これが減らされたら困るというご意見をよく聞いていたんですけれども、週に1日だけ来てはる人とかは、ここに来ない日の利用者の過ごし方とかいうのは、把握されているのかということと、ご家族の意見は、今どんなふうに変わっているのでしょうか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 ケースによって一概には言えないですけれども、週に1度利用されてる方というのは、主に一般就労されていたりとか、別

に就労継続A型とか、そういうところに行っていらっしゃる方がほとんどです。

仕事がお休みの日の余暇活動の一環として、地域活動支援センター事業の方をご利用いただいているという形になります。

それから、前年度、地域活動支援センターの方の利用回数が少し減ってきているということにつきましては、今でもやはりご利用のご家族の方からの、納得できないといいますか、そういうご意見、今もございます。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 その辺は、もう増やすということは無理ですか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 現時点では、考えておりません。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 相談支援事業なんですけれども、これはどの市町からも負担金が減ってるんですけれども、これは相談支援に来る人が減るからこういうことになっているのか、お伺いしたいと思います。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 今のところ、こうですというふうにお答えできることがありません。申しわけありません。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 お答えできないということですが、地域に入りますと、障がい者の方で、そういう福祉サービスを、障がい福祉サービスを受けようと思っても、相談のところがなかなかとれなくて、それで、なかなかサービスもつながらないということもお聞きしているので、その辺は、この事業は充実をさせていきたいと思えます。その辺、いかがでしょう。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 年間を通しまして、若竹苑の方で相談を受けてくれないかというふうなご依頼は確かにございます。恐らく、これはこの圏域の他の相談支援事業所の方でも、同じような形になってくるのかなと思っております。

私どもといたしましても、できるだけ相談支援専門員を増員する形で進めておりますので、私どもの方で相談支援を受けるのがふさわしいというケースについては、今後できるだけ減らさないで、受けていくような方向では、当然考えています。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 若竹苑で、ふさわしいケースの場合は、今、相談件数、できるだけ受けていきたいということでしたけれども、ふさわしいケースというのは、どういうケースでしょうか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 例えばですけれども、医療的ケアの非常に重視されるようなケースの場合、私たちの持っているノウハウよりも他の相談支援事業所の方が、例えばより長けていらっしゃるというようなケースにつきましては、場合によっては、若竹苑の方で受けないという可能性も、例えばですけれども、あるかと思います。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 例えばなんですけど、例えばとして、医療的ケアが重視するような人は、よそで。ほかはもう大体受けられるということ。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 相談支援専門員の余力がある中で、できるだけ受けていきたいとは考えています。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 すごく需要があるところだと思うので、考えていただきたいなと思います。

ポニーの学校も、契約児童数100人を超えて、療育は週1回の定期利用となって、あそこはもうとても手いっぱいだというのは、もうよく認識しているところなんですけれども、ほかのところだったら、もっと週に何回も受けてはる人もいますけれども、療育の機会が増えるように。

市としても、長岡京市で、市としても取り組むべきではないかというふうに言ったときに、ポニーの学校の支援は週1回だけれども、障がいのある子供がいる保育園とか幼稚園に、ここから訪問して、連携を図っていったりするのです大丈夫ですみたいなお返事があつたんです。

そういう、子供たちが、保育園とか幼稚園には、どのくらい訪問されてて、保育士さんの相談とかに応じたり、指導されているのかをお聞きしたいと思います。

○波多野庇砂議長 小松ポニーの学校施設長。

○小松悦子乙訓ポニーの学校施設長 ポニーの学校で行っている保育所幼稚園訪問の方は、年1回程度伺っております。市町の方でおっしゃられた保育所等訪問支援とは、また別のものだと思います。

- 波多野庇砂議長 住田議員。
- 住田初恵議員 別のものって、どのように。
- 波多野庇砂議長 小松ポニーの学校施設長。
- 小松悦子乙訓ポニーの学校施設長 保育所等訪問支援という事業が別にございますので、その事業を利用されている場合は、その保育所等訪問支援事業をしている事業所と契約をして行う。
- ポニーの学校の方では、保育所等訪問支援は行っておりません。
- 波多野庇砂議長 住田議員。
- 住田初恵議員 分かりました。それぞれの子供の発達支援の課題というのは、そしてらポニーの学校から行っているわけじゃないから、保育所にとか、幼稚園に行っているわけじゃないから、その辺の発達の課題とか共有とかは、そこの保育所、例えば子供が保育園に行っています、そこの保育園の保育士さんと、そういう発達の課題というのは、共有は、されているかどうか分からない。
- 波多野庇砂議長 小松ポニーの学校施設長。
- 小松悦子乙訓ポニーの学校施設長 年1回程度、連携をとるためにお話を伺っております。保育所、幼稚園の方に伺って、話を、ポニーの学校での様子もお伝えしてということで、連携はとっております。
- 波多野庇砂議長 住田議員。
- 住田初恵議員 特に発達に課題のある子供さんが就学するときに、保護者はすごく悩まれると思うんですけども、その辺で、子供さんによって考えなきゃいけないけど、親御さんもいろいろ悩まれていると思うんですけども、そのときの相談とかは、されているんですか。
- 波多野庇砂議長 小松ポニーの学校施設長。
- 小松悦子乙訓ポニーの学校施設長 ポニーの学校の方でも行っております。相談を受けたときに、個別にも相談させていただいております。
- 波多野庇砂議長 住田議員。
- 住田初恵議員 ポニーの学校の中で完結しているという。
- 波多野庇砂議長 小松ポニーの学校施設長。
- 小松悦子乙訓ポニーの学校施設長 ポニーの学校で相談させていただいて、保育所や幼稚園との連携もとらせていただいております。
- 波多野庇砂議長 住田議員。
- 住田初恵議員 どこに、学校、支援学校に行くのか。それとも普通の学校に行って、

通級に行くのか、支援学級に行くのかとか、いろいろ道はありますよね。

その相談を受けたときに、対処できる、教育支援センターにつないで、またそこから選んでもらうとか、そうじゃなくて、ポニーの学校で受けたときに、保育所と連携してると言われても、よくわからないのですけど。

○波多野庇砂議長 小松ポニーの学校施設長。

○小松悦子乙訓ポニーの学校施設長 教育支援委員会というものがありますので、ここにポニーの学校に通われていてという方には、ポニーの学校の担当の方から、そちらの教育支援委員会の方で資料などを上げて、どちらの学校に進まれるのがいいかといった審査をされるので、そちらの方に資料を上げられるかどうかということ、まずその相談を、ポニーの学校の方でも受けていただきますし、そちらの方に資料を上げて、そこで学校の方、学校はどちらの学校がいいかといった見解なども出ますので、そことの、そちらへのつないでいく、そこから就学相談にも、学校との就学相談にもつながっていくという、そういう流れがありますので、そちらの紹介をポニーの学校の方でも受けていただけますし、資料を作成させていただいたり、学校からの訪問を、参観を受けさせていただいたりということをしてもらっています。

○波多野庇砂議長 住田議員。

○住田初恵議員 ありがとうございます。長岡京市にはリンクブックというのがあるんですけども、その辺も活用してやっていただけるんですか。

○波多野庇砂議長 小松ポニーの学校施設長。

○小松悦子乙訓ポニーの学校施設長 ポニーの学校の資料をリンクブックに挟むというようなことは、親御さんはされておりますので、そちらの、必ず、ポニーの学校で療育計画、療育の記録のまとめというものを、親御さんにお渡ししていますので、親御さん自身が文章で作成するという事は難しかったりしますので、そちらの方をリンクブックに挟むということも、お勧めしております。

○住田初恵議員 分かりました。

○波多野庇砂議長 ほかにございませんか。

辻議員。

○辻真理子議員 若竹苑の管理費の方で、南側の外壁の側溝改修というの、今回、予算、上がっているんですけども、今、施設整備基金という形で、どのように、基金でのあるのかどうかお聞きさせていただいてよろしいでしょうか。

○波多野庇砂議長 河原崎事務局長。

○河原崎清隆事務局長 施設整備基金は、現在、持っておられませんので。財政調整基金のみでございます。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 先ほどの修繕計画の方は、今後の計画というところで、大規模計画的なものはあるということですが、若竹苑できて、もう30年、40年近くなるということで、今後のその個別で、やはり修繕が必要になってくるということもあるのかなと思うんですけども、そこら辺の整備に対する予算というのは、この組合として、どういう形でとっておられるか、お聞かせいただいてよろしいですか。

○波多野庇砂議長 河原崎事務局長。

○河原崎清隆事務局長 今、申し上げましたように、施設に関する基金を一定設けております、項目はあるんですけども、金額を設けてないということになっております。

庁舎の修繕計画につきましては、大きなものを含めて、大体5カ年計画ぐらいで予定を組んでおります。

それ以外にも、今回のように、このぐらいの金額の修繕等につきましても、一応計画はしているんですけども、あとは年度年度ごとで、例えば大きい空調であるとか、屋根の葺き替え、これまでもしました、あと、水回りの修繕であるとか、そういう大きなところの根本的な計画と、あと、年度ごとに細かい修繕等に関しては、対応していくということで、その辺の部分については、毎年の予算の計上で分担を求めているところでございます。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 先ほども、ポニーの学校の方の利用者の方が増えたりとかで、もともとこの、若竹苑の、実際の利用という、ハード的にどれくらいの方が来られるかというところ、説明いただいたときも、80名程度の方が、ここに通所やったりされる、施設として最初、つくられている中で、今120人以上の方が利用も結構されてるということで、今後のところで、実際に若竹苑の中、入らせていただいても、生活介護をつくらはるときに、地活を立てはるときとか、かなり工夫をされながら、施設、使われているなというのは感じているんですけども、今後のところのそういう個別計画の中に、機能充実ということも、検討、入れていかないといけないと思うんですが、今後のところの方向性みたいなものというのは、何かお考えか、お聞かせいただいていいでしょうか。

○波多野庇砂議長 河原崎事務局長。

○河原崎清隆事務局長 ただいまお答えしましたように、ある一定大きな修繕計画等は持っておるんですけども、昨年からのコロナ禍等も含めまして、今ある施設がどのように利用できるのかということも、日々検討しております。

お話がありましたように、本来のスタートした受け入れ人数から、今、大変多くなっておりまして、各部屋の仕様であったりとか、という工夫で、今ちょっとしのいでいるような状況です。

今後につきましては、若竹苑もポニーの学校も含めまして、例えば相談事業が非常に増えておりますので、このことに対して、職員の体制を合わせていくとなると、今度、部屋がございませんので、その部屋をまたどこか、施設の一部を利用して、改修等できないかとか、ということで、今検討しているんですけども、近々、そういう大きな基本の計画以外に、このコロナ禍の中でどういうふうに施設面を利用していくのかということは、また上げさせていただきたいなというふうに思っております。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 別項目なんですけども、先ほど、就労継続B型のところで、作業工賃の方が、次の新年度予算の方は、結構上げた形になっているんですけど、これまでは報酬改定がされてくる中で、月額の平均工賃が高い事業所さんに、報酬が高いということがちょっとあったんですけども、新たな新年度になったときに、そうすると、月額の平均工賃が高い利用者さんばかり、ばかりと言うか、そういう事業所に、事業所報酬が高いというところが、どうしても課題となっていたところもあると思うんですが、その中で、平均工賃に関わらず、一律の基本報酬を体系とする制度というのを、新たに国は創設されてるんですけど、今後のところで、ここの就労継続B型事業は、どのような形の体系でいかれるか、ちょっとお聞かせいただいでよろしいでしょうか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 来年度の報酬改定の中で、就労継続B型事業については、2つの道を、これから選んでいきなさいとなっています。

先ほど、辻議員の方からお話いただいたように、工賃向上を目指さないという報酬体系の方も、来年度については、取ることができるんですが、若竹苑の方といたしましては、今年度と同様に、あくまでここは就労の場というところを基本線に置いて、従来どおりの報酬体系の方を選択したいと思っています。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 実際に利用される日数とかにも、変わってくると思うんですけども、現在の平均工賃というのが幾らか、お聞かせいただいでよろしいでしょうか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 およそ1万8,000円から9,000円の範疇です。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 今年度は、特にコロナの影響もありまして、ここの就労継続とか、利用控えとかがある利用者さんもおられたかと思うんですけども、そこら辺の補助金というのは、補填されてるということで理解してよろしいでしょうか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 京都府の方から補助金のご案内がございまして、工賃の補填のところについては、実際、私どもの方でも申請をしました。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 地域活動センターの方ですけれども、先ほども、利用的には週に1回であっても、地域、なかなか、ご自宅でおられる方が、週2回もここを利用してということの、目的はあるんですけども、実際に、週5日通いたい方がおられるというの、先ほども住田議員、おっしゃってたんですけども、今後のところで、もし生活介護が、1名、今定員としてあいている中で、そこら辺のご案内とかってというのは、されているんですか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 しておりません。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 実際に、例えばその生活介護もそうですし、就労のBのところでも、定員としてはあいているのであれば、今、こういう状況で、あいておりますよということ、やっぱり周知していくというのは、必要なことなのかなと思いますので、ぜひそこはご提案いただければと思います。

地域活動支援センターの方で、実際就労されている方が、土曜日、今ふれあいサロンの方、利用されてるということで、実際に、これ、コロナの影響でなかなかちょっと、中身の余暇支援で利用できないこととかがあって、まだ伸び悩んでると、この前お聞きしてたんですが、そこで、今、サービス提供時間が火曜日から土曜日なんですけど、将来的に日曜日開催ということも念頭に置いてると、前回ちょっとお聞きしてたんですが、そういうことも踏まえて、今後、利用の拡大ということは

考えておられるのか、お聞かせいただいてもいいですか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 地域活動支援センターについて、比較的私たちのサイドでできるところが多いので、今後の利用者ニーズを踏まえた中で、曜日の変更でありましたりとか、そういうところについては、その都度、ニーズを見ながら考えていきたいと思っています。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 あと、相談支援事業の方の若竹苑の方とポニーの学校の方、両方、相談件数的に増えているということで、先ほども管理者諸報告の方で、若竹苑の39件の相談支援を受けていると言われたんですけども、この1年間で、件数的には伸びてるのか、大体横ばいなのか、お聞かせいただいてもよろしいでしょうか。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 この予算資料の方では、39件というふうになっております。これがちょうど1月末現在で39件だったんですけど、ちょうど今、年度変わりということもありまして、3件減りました。

介護保険の方に移行されたりとか、そういうケースもございますので、現在、36件になっております。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 ここもなかなか相談支援専門員というところが増えないと受けられないという現状がありまして、特に今年度、コロナの影響で研修の機会がなかなか少ないというのもあるんですけども、乙訓福祉施設事務組合だけで何か解決できませんかって、私もちょっと自立支援協議会で、そんなん研修できませんかとか、ちょっとご提案させていただいたんですけど、正直難しいところもあるのかなというところで、例えば相談支援専門員さんが、経過的に、何年でしたっけ、5年を受講しないと、次もう資格的にそれが、資格として、その相談支援専門員としてできないというところを、例えば延長という形とかで、相談支援専門員さんを増やすとかというのを、例えば府であったり、国に要望していただくということを、ぜひしていただきたいなと思うんですけど、その点いかがですかね。

○波多野庇砂議長 中川事務局次長兼乙訓若竹苑施設長。

○中川仁夫事務局次長兼乙訓若竹苑施設長 若竹苑においては、今年度、相談支援専門員の初任者研修の方、2名受講することができまして、2名増員することができました。

反面、育児休業等で、資格がなくなった職員が1名ございます。このときに、こういう事情で、5年の資格が、有効期間というものを切ってしまうということについては、少し、何か救済措置はないかということについては、京都府の方にもご相談させていただいたんですけれども、そういうことも踏まえた上で、計画的に研修を受講するよという答えでございました。

○波多野庇砂議長 辻議員。

○辻真理子議員 実際にその資格を持っていたら、きっと、この若竹苑とかポニーの学校でも、どちらでも、もうほしいほしいという、正直なっていく中で、支援専門員さんを増やすということが課題なのかなと思うので、ちょっと救済措置だったりというのがあれば、実際に、そういう資格を取ろうとされている職員さんとかおられたら、そこも丁寧に説明していただいて、なるべく受験資格であったり、資格が失効しないように、丁寧に配慮、声をかけていただければと思いますのでお願いいたします。

○波多野庇砂議長 ほかに、ございませんか。

辻議員。

○辻真理子議員 あと、この間、喫緊の課題というところで、乙訓福祉施設事務組合だけの課題というよりかは、二市一町の課題になると思うんですけれども、先ほども療育のところで、週に1回、ポニーの学校も週に1回しか利用ができないということだったり、日中一時支援も、月10時間ということであったり、二市一町の方にも、今、放課後児童デイサービスの週5日の利用というのが、陳情で上がっていると思うんです、3月議会で。

といったときに、やはりこの課題というのは、二市一町でどのような形で需要と供給のバランスを組んでいくかというの、すごく大きな課題やと思うんですけれども、なかなかね、それをどこでとなると、各市町の方の市長さん、町長さんに検討いただくしかないのかなと思うんですが、そこら辺、せつかくこの乙訓福祉施設事務組合というのがありますので、そういう課題解決のためにも、ご努力していただきたいなと思うんですが、その点いかがですか。

○波多野庇砂議長 河原崎事務局長。

○河原崎清隆事務局長 今、辻議員からございましたご質問については、乙福全体の事業もそうなんですけど、常々、二市一町、構成団体の二市一町と、いろいろと運営協議会なり、協議をしながら進めておりますので、一方、放課後デイとか、今ちょっと市町の方に出ている問題につきましては、ここで乙福が答えるということは

難しい面があるんですけども、福祉の事業を推進するという意味では、二市一町も乙福も同じですので、引き続き構成団体と協議できる部分につきましては、進めていきたいというふうに思っております。

○波多野庇砂議長 ほかに、ございませんか。

(「なし」の声あり)

それでは、質疑も尽きたようですので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、反対討論を求めます。

(「なし」の声あり)

次に、賛成討論を求めます。

(「なし」の声あり)

ご意見もないようですので、討論を終結します。

これより採決に入ります。

第3号議案について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

挙手全員であります。よって、第3号議案は原案のとおり可決することに決しました。

以上で本日の議事日程は全て終了いたしました。

○波多野庇砂議長 それでは、これをもちまして令和3年乙訓福祉施設事務組合議会第1回定例会を閉会いたします。

ご苦労さまでした。

(閉会 午前11時05分)

地方自治法第123条第2項の規定により下記に署名する。

乙訓福祉施設事務組合議会議長 波多野 庇 砂

会 議 録 署 名 議 員 北 林 智 子

会 議 録 署 名 議 員 嘉久志 満